口絵 3 : 日本南方海域の海底地形と地磁気異常—最近の海底調査成果の例—
 Pictorial 3: Sea-bottom Topography and Geomagnetic Anomalies of the Southern Waters of Japan
 —An Example of Recent Sea-bottom Survey Results—

図 1 日本南方海域の海底地形. (海上保安庁水路部の大陸棚調査成果による)
 日本南方海域では、1983 年から海上保安庁水路部による大陸棚調査プロジェクトが行われており、ここに示すのは 1997 年までの成果の一部である。測量船の航跡は 9-19km 間隔で、航跡の総延長は 37 万 km に及ぶ。測深はマルチビーム測深機 (Sea Beam) で行われた。

図 2 日本南方海域の地磁気異常分布。
 西フィリピン海盆、四国海盆や伊豆小笠原海溝東方の太平洋プレートに明瞭な地磁気縞状異常が認められる。記号は地磁気異常番号、矢印は海底拡大の方向を示す。ODE: Oki-Daito Escarpment, OLF: Okinawa-Luzon Fracture Zone
 四国海盆、パレスペラ海盆に見られる海底地形の特徴と地磁気縞状異常分布の特徴から、両海盆が2,700 万年前から1,500 万年前に拡大し、海盆拡大の終期に拡大軸がセグメント化したと推定されている（本文参照）。
 (図提供：海上保安庁水路部、解説：大島章一 Shoichi OSHIMA)